

What might donor identifiability bring us?

ドナーの特定可能性がもたらすもの

Prof. Guido Pennings

Q. 自己紹介をお願いします。

現在、ゲント大学で倫理と生命倫理を教えている。それ以前は、ブリュッセル自由大学で働いていた。生殖補助医療と遺伝学の領域にほぼフォーカスしているが、身体部品の提供に関してもいくつかの仕事をしてきた。

Q. 世界的に見て、オーストラリア・ビクトリア州のように積極的に出自を知る権利を認めている国と、匿名を許容している国と、いろいろありますが、全体的に、どういう方向性に向かっていると思いますか？

出自を知る権利を支持する潮流があるのは確か。これは多くのヨーロッパ諸国で見られることだ。そしてこれは家族や配偶子提供に対する認識に悪い影響を与えるもので、間違った方向に向かっていると考えている。自分の見解では、それは、生物学的家族を強化する、非常に保守的な動きであり、最終的に配偶子提供は完全に終了するだろうと考えている。

自分たちはこの論争に負けているので、ドナーを必要とする人が最終的にその代償を支払うことになるだろうと思っている。

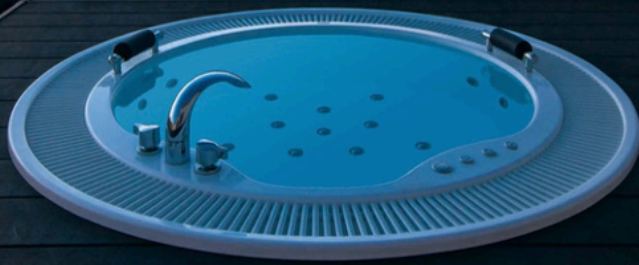
Q. 匿名制度にはどのような advantage と disadvantage がありますか。非匿名制度についてはどうでしょうか。

ドナーの匿名性は、告知(テリング)の問題と非常に密接に関連している。政府や公的機関がこれほどまでに家族に介入するという考え自体、極めて珍しい。政府や公的機関は、人々が家族をどのようにみなすか、子供とどのように関係するか、その意思決定のプロセスに介入して、命令している。自分は、非匿名での提供に何ら反対するものではないが、それはあくまでも親やドナーが選択すべきだと考えている。政府や公的機関が家族に介入したいのであれば、その介入を明確に正当化できるものが必要だ。

匿名ドナーの利点は、家族をどのように形成するか、親が決められるということ。ドナーの匿名性が弱まるにつれて、精子バンクに行く人はますます少なくなり、代わりにオンラインで非公式の提供を受ける人が増える。この場合、もっとリスクがある。

生殖医療として行われている配偶子提供は、元々は家族の形成にとって遺伝的つながりは必須ではない、ということ的前提としていたが、今日では、匿名ドナーを使用するという両親の選択は、遺伝的つながりが重要であるという信念に根ざしている。もちろん、その結果として問題を抱える子供もいるが、これは両親の選択の結果だということ。

子供が自分の遺伝的起源を知らないことが、悪い影響を及ぼすという研究は一つとして存在しない。ドナーから生まれた人の中には、ドナーの情報を欲しがるといって、これは大人になった彼らが、生物学的家族に焦点を当てるといって、周囲のイデオロギーを採用しているため。したがって、問題は子供たちから生じているのではない。それは、遺伝学と生物学が家族の形成にとって極めて重要なものであるから、ドナーを知りたいのは普通だという支配的なイデオロギーから来ている。



配偶子提供は連続的なもの。それは、一方の極に匿名の提供があり、真ん中に特定可能な提供、もう一方に知っている人からの提供がある。重要なのは、関係者が、その起こっていることに対して、快適に感じているかということ。もしそうなら、すべて良し。自分は、そのような私的な家族の問題に介入する、政府の干渉に対して反対しているだけ。調査研究によれば、ドナーから生まれた子供と、自然妊娠で生まれた子供のあいだには、違いがないことが示されている。

Q. 23andMeなどの遺伝子検査をどのように評価しますか。

遺伝子検査サービスは、ドナー情報の定義を変えている。それは、極めて強力な証拠に基づいて判定を提供している。過去20年もの間、多くの精子バンクは、十全な努力を払って、ドナープロフィールを拡張して、ドナーの特定を可能にする情報を提供してきた。その意味で、ドナーの匿名性はすでに破られていたが、実際にドナーを追跡する努力をした人はほとんどいなかった。現在でも、クリニックはドナーの個人情報をおかさないことでドナーを匿名に保つことができるが、将来的にドナーが特定されないことを保証することはできなくなった。

「私はずっと匿名である」という意味でのドナーの匿名性は過去のものとなった。自分の考えでは、それは重要なことではない。速度制限に喩えるなら、車が時速200kmで運転できるからといって、制限速度を廃止するべきできない。ドナーの匿名性は、レシピエントとドナーの間の合意だ。過去には、この合意を保証したのはクリニックだった。今日では、DNAデータベースにアクセスすることでクリニックを迂回できるため、それは不可能になった。つまり、依頼親とドナー

の間にあった、もともとの契約を出し抜いているということになる。

ドナーから生まれた子供は、自身が契約を結んでいないので、やりたいようにできる。しかし、それは次のような疑問を投げかける。「それは彼らの最善の利益になるか？」自分は懐疑的だ。現在得られる情報によれば、その結果はしばしば良くないものだ。

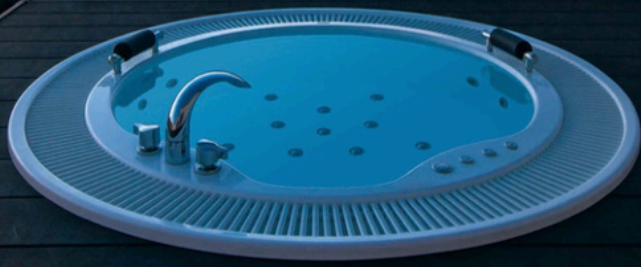
ボランティアレジストリーにより、双方の当事者（ドナーとドナーから生まれた人）が契約条件の変更に同意することができる。どちらかの当事者がこれを望まない場合、コンタクトは必然的に緊張を引き起こし、うまくいかない。

時間が経つにつれて、ドナーとドナーから生まれた人の双方が特定される例が増えていくだろう。ドナーとドナーから生まれた子供が遺伝子検査で非公式にコンタクトをとること、その影響と結果について、現在得られる情報はほとんどない。

Q. 親がテリングして、子供が悩んでいるケースもあります。こうしたことは量的研究(Golombok教授らがやっているような)ではわからないのではないかと思います。どのように考えますか。

この分野で定量的研究は非常に少ない。英国のGolombokの研究などが代表的であり、このグループでは、子供と親の関係を測定するような類の研究を出している。一般に、これらの研究は30～50人の比較的小さなグループを対象としている。そして、ほとんどすべてがアングロサクソン系の人々を対象に実施されている（主に英国とオーストラリア、そして米国）。それは、1つの国や1つの文化しか測定していない。

他の文化の文脈でGolombokの研究を繰り返すことは興味深いと思う。男性不妊



に関して、すべての非アングロサクソン文化ではタブーであり、ドナーの特定可能性はさらに大きな葛藤を引き起こすだろう。

Q. アメリカで、精子ドナーを見つけて自分の family name をドナーのものに変えたと言っていた男性がいました。こうしたことは、ドナーから生まれた人の間では、よくあることですか？ 小さい頃から テリングすればこうした事態を防げると考えますか？

それはまれなシナリオだが、ニュースではよく聞く話だ。それは、彼らの声が大きすぎるから。これは、遺伝的つながりが家族の要であるという考えに結びついている。それは残念なことだ。どれだけの人がこのようなことを経験しているのかはわからないが、匿名性やドナーによる出生それ自体に対して、かなり否定的な反応を示している人もいる。彼らはおそらく小さなグループだが、自分たちの不満について大きな声で話している。自分は、彼らを助ける方法は、彼らにはすでに完璧な家族がいることを伝えることだと考える。ドナーから生まれた人の圧倒的多数は、幸せでうまくいっている。

告知に関する文献レビューを行い、（アングロサクソンの文化的文脈において）テリングする場合とテリングしない場合で何の違いもないことを発見した。自分が不当な扱いを受けていると感じる人は大きな声を上げるが、ドナーから生まれた子供や大人で、何の問題もない人は非常にたくさんいる。ドナーについてより多くの情報を求める人の数は実際には少ない。

DNA 検査によって、父親と血が繋がっていないことが判明することもあり、これは興味深い。（つまりこれは、精子提供ではないにもかかわらず、父親が別の人物であったことを意味する）。

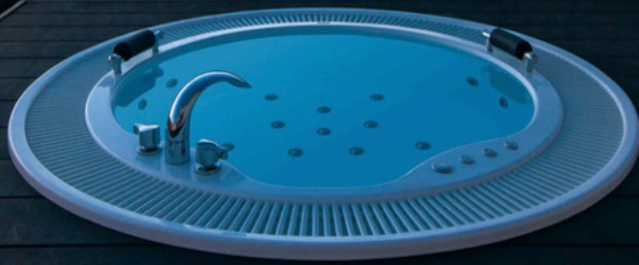
テリングが受け入れられない文化もある。例えば、保守的な宗教コミュニティなど。テリングがこれらの人々の選択肢であると考えるのは非現実的で空論的だ。個人的な事情によって、子供に対してドナーから生まれたことを知らせることはない判断した場合でも、親は罪の意識を感じるべきではない。

Q. 精子提供で親になった男性は、母親以上に子育てに関わり、子どもと愛着関係を持つ必要があると考えますか？

卵子提供と精子提供で形成された家族に関して、親と子の関わりについての研究はかなりある。精子提供の場合、レズビアンの方の母親は、子育てにより関与する傾向があることがわかっている。しかし、ゲイの男性にとっては、はっきりとはわかっていない。異性愛カップルの男性の場合、彼らがより育児に関与していることを示すような証拠はない。一般的に、多くの家族の中で、男性は育児をあまりやらない傾向があり、それと同じことだ。

ドナーの特定可能性は、父子関係に悪影響を与える可能性がある。精子ドナーを探している子供に関するスウェーデンの研究では、両親にドナーを探していると告げることは、父親との関係の悪化につながるということがわかった。ほとんどの父親はこのプロセスに関与することを望んでいなかったため、子供は困難な状況に置かれる。

Q. you tube や instagram など、ドナーから生まれたことを公表する人が増えているようです。肯定的に自分のことを語っている人もいます(自分は「特別な存在」など)。Donor conception に関するスティグマは消えつつありますか？



そのような変化は見られないと思う。私たちが見ているのは、同性愛カップルのように、子供に対してテリングをしない選択肢を持たない人々がたくさん出現してきているということ。しかし一方で、自分は今まで、過去にドナーだったことを明らかにした男性に会ったことがない。配偶子提供のタブーは以前と同じで、多くの人は差別を恐れて言いたがらない。

それがノーマライズされるまでにはさらに何年もかかるだろう。彼らにカムिंगアウトして、状況を変えることを強いるべきではない。そうした侵入は、容認できないことだ。

Q. 代理出産を依頼したゲイカップルは「母親はいない」と子供に教えているようです。子供は、このことを本当に信じていると思いますか？ 将来、代理母や卵子ドナーを母親だと考える子供が出てくる可能性があると思いますか？

ごく少数かもしれないが、そういったことは生じるだろう。違う見方をする人はいつもいる。

ドナーの特定可能性への動きは、これらの家族に対して、何か間違っているとか、逸脱している、あるいは「不完全」などというメッセージを送っている。だから、防衛的にならざるを得ないということは理解できる。文化的小よび社会的文脈に置かれたこの考え方と格闘しなければならぬ子供たちがいるのは確かだ。

人々は自分と同じような信念を持つ人々と交流する傾向がある。たとえば、ポーランドでは、カトリックの影響が強く、体外受精に反対する人が多数派を占める。しかしそれと同時に、隣人は密かに、家族を作るため、体外受精を行なっているかもしれない。

Q. レズビアンカップルの場合、精子ドナーとの関係は異性愛カップルと異なりますか？

このことに関する研究を知らない。ベルギーでは、匿名が容認されており、多くは単に精子ドナーとの関係に興味がないので、匿名のドナーに満足している。

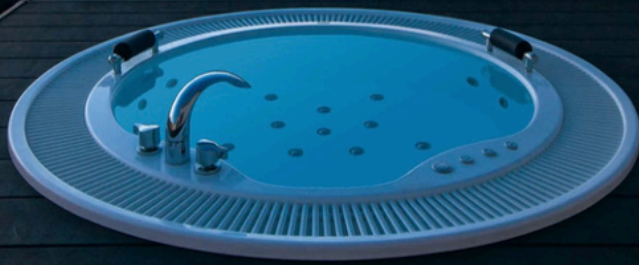
研究によると、共同母親(co-mother)もドナーから脅かされていると感じているので、男性カップルの問題だけではない。それは家族の中での自分の立場が関わっていることだから。

Q. ベルギーの法制度について、いまだどんな議論がありますか。今後、法改正の可能性はありますか。

フランスで最近、新たな変化があり、厳格な匿名性から特定可能性へと移行した。これにより、フランスでのドナー数が減少し、より多くのフランス人がベルギーに来るようになった。その法律によれば、より多くの人々がドナー精子にアクセスできるようになったが、実際には、ドナーが少なくなったために、精子にアクセスできる人は少なくなっている。

ベルギーでは、フランス語が話されているため、フランスの影響が強くなっている。ドナーの匿名性に関する議論は、ベルギーで15年間続いており、すべての保守的な政党が特定可能性を求めている。ベルギーで実施された、いくつかの研究によれば、特定可能性がドナーの劇的な減少をもたらし、ドナー数は1/4になることが示されている。

これは間違った方向に向かっていると考える。精子を探している人は、インターネットに行き着くことになるが、卵子の場合これは不可能だ。配偶子提供を最も必要としている人々が、こうした保守的な動き(特定可能性への移行)の代償を支払うことになる。特定可能性への変化



を押し進めることは、保守派の利益になる。なぜなら彼らはそもそも非伝統的な家族を喜んでいないからだ。

ベルギーでは匿名がデフォルトだが、知り合いからの提供も容認されている。ただし、特定可能な提供は容認されていない。ドナーとレシピエントが知り合いの場合、互いに提供することができる。対価を支払うことが禁止されているため、卵子ドナーは少なく、自分で卵子ドナーを募集する必要がある。また、知り合いからの精子提供は非常に少なく、ほとんどがレズビアンのカップルに提供しているゲイの男性だ。

国内で卵子ドナーを見つけることができない場合、スペインやチェコ共和国に行っているのではないかと推測する。待ち時間は6か月から1年だが、この場合はそれほど選り好みすることはできない。特定の嗜好がある場合は、もっと長く待つ必要がある。つまり、マイノリティグループの出身で、同じ人種の卵子ドナーが必要な場合は、もっと長く待つか、米国のような海外に行く必要がある。

Q. 20年、30年後、どんな風景を予想しますか。

配偶子提供はもはや存在しないだろうと予測する。ドナーが特定可能になったことが終わりの始まり。何年も前の場所に戻り、「受容可能な」家族という偏狭な見方に逆戻りすると見ている。匿名性から特定可能性への移行は、非伝統的な家族には何らかの問題があり、そうした家族は、何か間違っただけをしでかしているという風に指摘し続けているのと同じことだ。

多くの政党がますます多くの規制を推進している。例えば、ドナーを特定できる年齢を下げる。これは家族が望ん

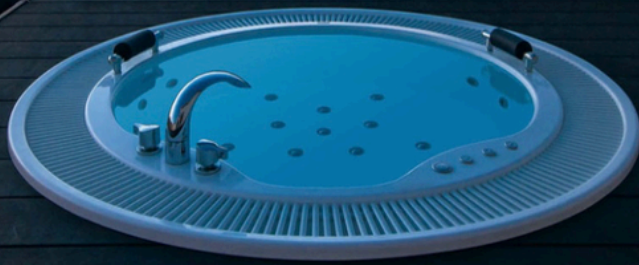
でいることに反している。それは、これらの家族に対し、あなたたちは本当の家族ではないと言っているのと同じこと。いずれ、配偶子提供は子供にとって有害であると指摘され、廃止されるだろう。

Q. その他、重要なこと。

現在、多くのプロジェクトをやりくりしている。主にフランスとベルギーでの卵子提供の研究に取り組んでいるが、より理論的なプロジェクトとして、デンマークからの精子ドナーについても研究している。

また、Donor conceptionにおけるインターネットの役割についても調査している。ある場所のルールが気に入らない場合は、他の場所を探すだけ。人々は自分が欲しいものを自分で決め、それに従って別の解決策を見つける。問題は、何がその原因になっているかということ。規制当局が人々をインターネットに向かわせているのか、それとも「無責任な市民」が原因なのか？間違っていると当局により見なされると、より厳しい規制が実施される。

ベルギーで、オンラインを使ってドナーを探す場合、ほとんどは国際的なウェブサイトを紹介されている。ベルギーには2つの言語がある。オランダ語を話す人の場合、多くの人オランダ語のウェブサイトを使用しており、組織自体がサービスを宣伝するためにベルギーにやって来る。フランス語を話す人の場合、よく分からない。彼らはフランスに行っているのではないかと思うが、フランスの規制が変更され、状況は変わった。英国のウェブサイトもドナーを探すために使用される場合がある。このようなことを始めるには一定のボリュームが必要だ。そのため、多くの人々が既存のオランダのウェブサイトを使用している。



ベルギーは人口わずか1,100万人の小さな国だ。

オンライン環境は変化が早いので、1つのウェブサイトが成功した場合、それは急速に成長する可能性がある。そのため、現在形でこれを観察したいと思う。それは規制されておらず、コントロールすることもできないので、今のところ害を減らすことくらいしかできない。

(2022年6月)

Prof. Guido Pennings

Free University Brussels で Ph.D を取得した。現在は Ghent University の倫理、生命倫理分野の教授であり、Bioethics Institute Ghent のディレクターを務めている。生殖補助医療や配偶子提供について多数の論文を発表している。

論文:

Pennings G. The dangers of being a sperm donor. *Reprod Biomed Online*. 2021 Nov;43(5):771-774.

Pennings G. Response to: Women's emancipation, but what about men? *Reprod Biomed Online*. 2021 Sep;43(3):578

Pennings G. Reply: disclosure and donor-conceived children. *Hum Reprod*. 2017 Jul 1;32(7):1537-1538.

Pennings G. Disclosure of donor conception, age of disclosure and the well-being of donor offspring. *Hum Reprod*. 2017 May 1;32(5):969-973.

Pennings G. Problematizing donor conception and drawing the right conclusions from the evidence. *Fertil Steril*. 2021 May;115(5):1179-1180.

Pennings G. Reply: disclosure and donor-conceived children. *Hum Reprod*. 2017 Jul 1;32(7):1537-1538.

Pennings G. Expanded carrier screening should not be mandatory for gamete donors. *Hum Reprod*. 2020 Jun 1;35(6):1256-1261.

Pennings G. How to kill gamete donation: retrospective legislation and donor anonymity. *Human Reprod (Oxford, England)*. 2012;27(10):2881-5.